



“地域のことは地域で考えよう”

2018年8月28日

## おきぎん県内景況・速報

2018年7月

—県内景況は、拡大している—

### ■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。  
家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数は上回る。

### ■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。  
生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

### ■観光関連

入域観光客数は前年同月を下回り、観光施設入場者数も下回る。  
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

### ■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

## 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年7月分)

◎2018年7月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

7月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回りました。百貨店売上高は、食料品などが伸び、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は、前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や市町村発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

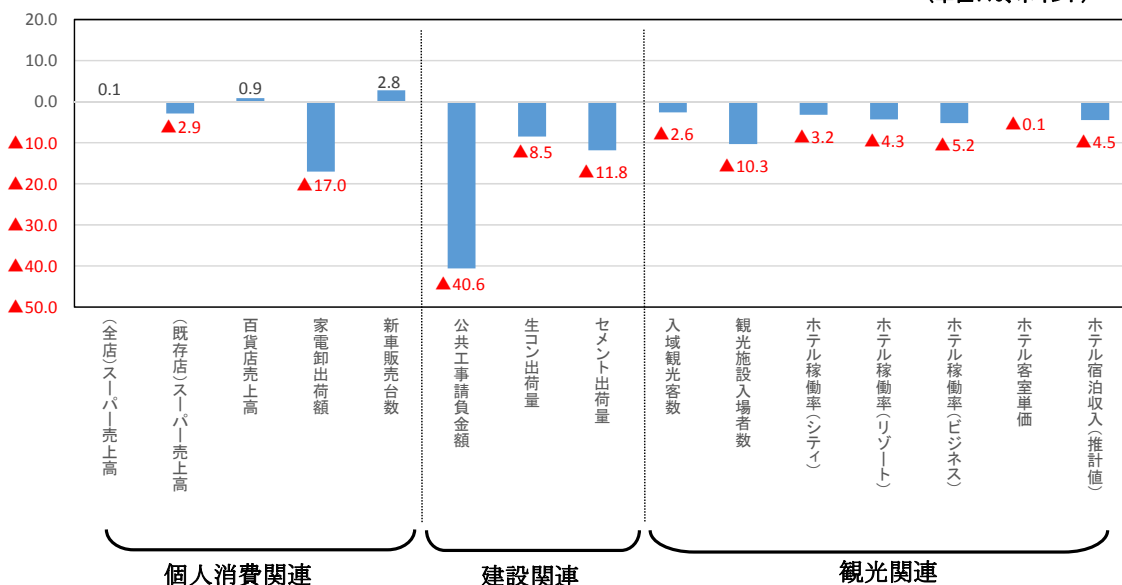
観光関連では、入域観光客数は70ヵ月ぶりに前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動き(※詳細は8ページ参照)が継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から54ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



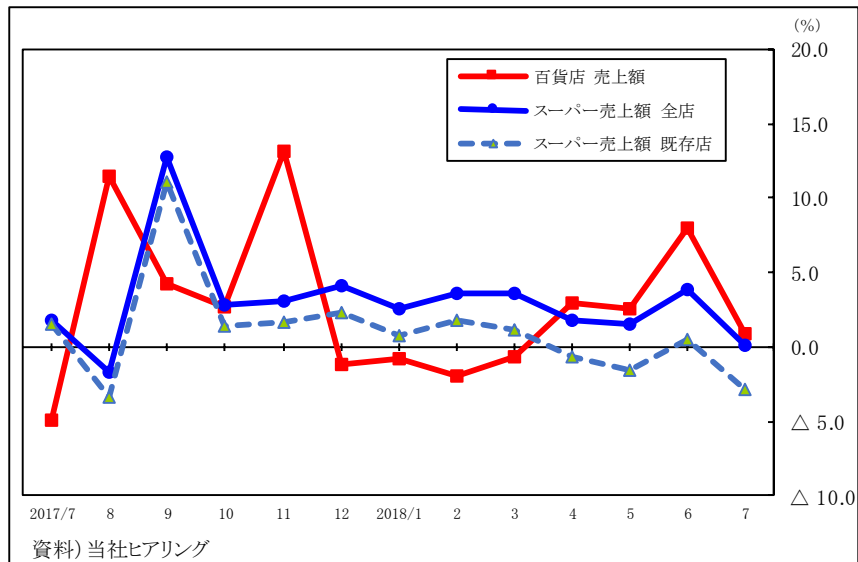


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店
	全店	既存店	売上額
2017/7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5
9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7
11	3.1	1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9



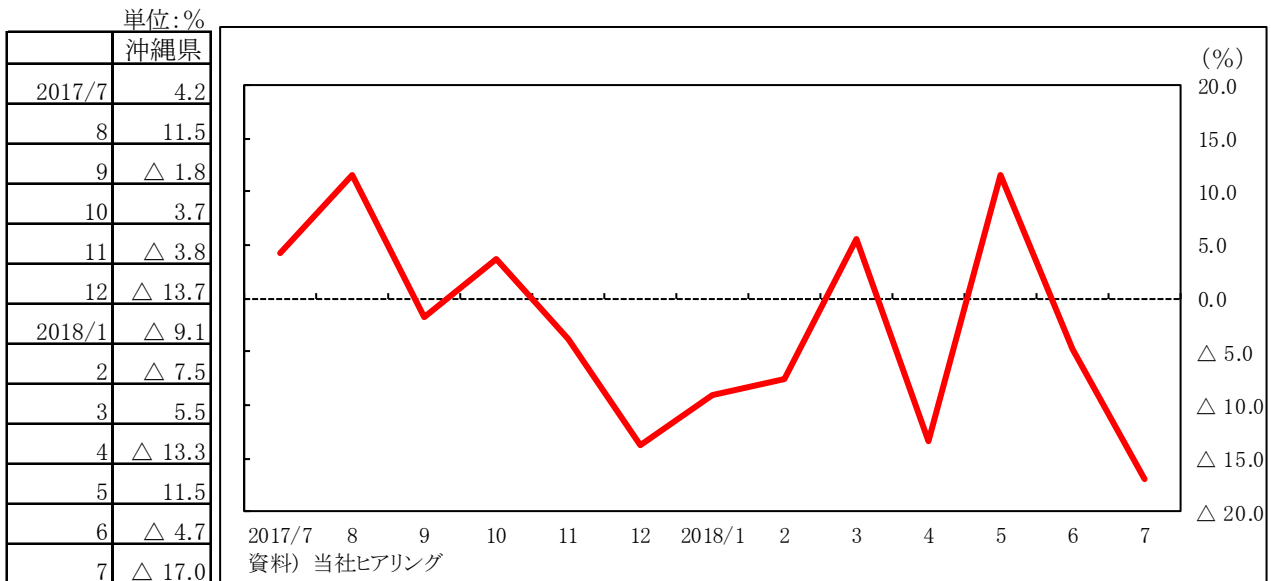
注) 前年同月比

7月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 0.1%増)」は、新規出店効果などにより「食料品(同 0.1%増)」が伸び、11ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 2.9%減)」は、前年に比べ気温が低く推移したことなどから、夏物商材を中心に売上が伸び悩み、2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同 1.4%減)」は、相場高から青果や野菜などの生鮮食品が伸びたものの、前年に比べ気温が低く推移したことから、飲料などの需要が減少し、前年同月を下回りました。「衣料品(同 9.9%減)」、家電を含む「家庭用品(同 5.9%減)」は、台風襲来による影響や、前年に比べ気温が低く推移したことなどにより、夏物商材の売れ行きが伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、食料品の売上が伸び、4ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 0.9%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 14.5%減)」は、「紳士服(同 12.1%減)」、「婦人服(同 15.7%減)」は、台風襲来による天候悪化や、クリアランスセール開催を前月に前倒したことなどにより、売れ行きが低調だったことから、前年同月を下回りました。「食料品(同 26.0%増)」は、お中元ギフト需要が増加し、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 0.7%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。

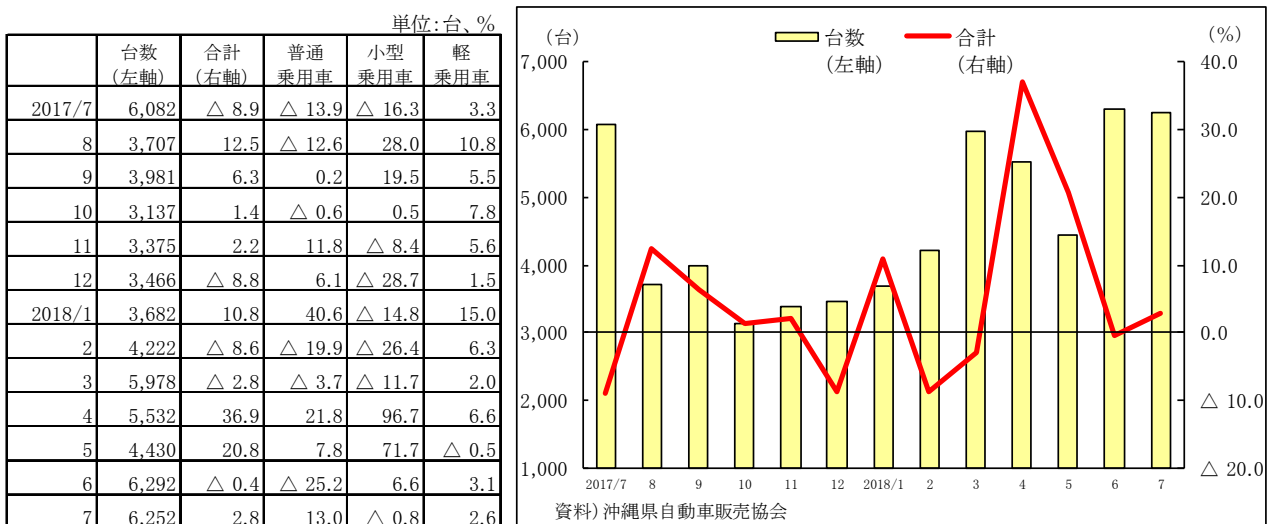
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月連続で前年同月を下回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、エアコンの需要が減少し、2ヵ月連続で前年同月を下回りました(同 17.0%減)。品目別では、「冷蔵庫(同 15.9%増)」は、大型商品の需要が堅調に推移し、前年同月を上回りました。一方、「エアコン(同 27.8%減)」は、台風襲来や、前年より気温が低く推移したことから需要が減少し、前年同月を下回りました。「洗濯機(同 3.1%減)」、「テレビ(同 0.8%減)」は、買い替え需要が低迷し、前年同月を下回りました。また、「太陽光パネル(同 57.2%減)」は、需要が減少し、前年同月を下回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で 6,252 台(同 2.8%増)となり、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。車種別では、「小型乗用車(同 0.8%減)」は自家用車需要が伸びず、4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。一方、「普通乗用車(同 13.0%増)」、「軽乗用車(同 2.6%増)」は、レンタカー需要が伸び、前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

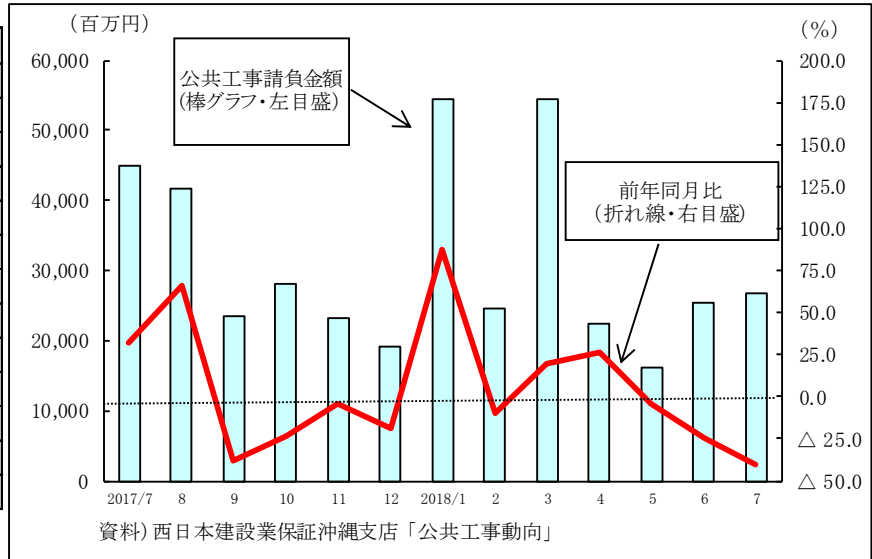


■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2017/7	45,031	31.8
8	41,576	66.3
9	23,363	△38.3
10	28,073	△23.5
11	23,134	△3.7
12	19,275	△19.4
2018/1	54,569	87.2
2	24,674	△10.3
3	54,532	19.7
4	22,513	26.3
5	16,134	△4.5
6	25,324	△24.9
7	26,729	△40.6

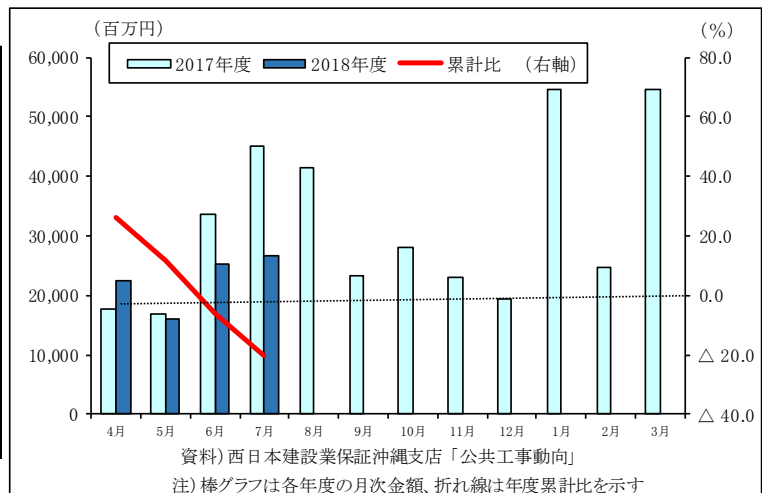


7月の公共工事請負金額は、前年同月比40.6%減の267億2,900万円となりました(3ヵ月連続減)。発注者別でみると、「独立行政法人等(同31.0%増)」や「沖縄県(同10.9%増)」、「その他の公共的団体(同129.3%増)」は前年同月を上回りましたが、「国(同71.1%減)」や「市町村(同0.3%減)」は下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。

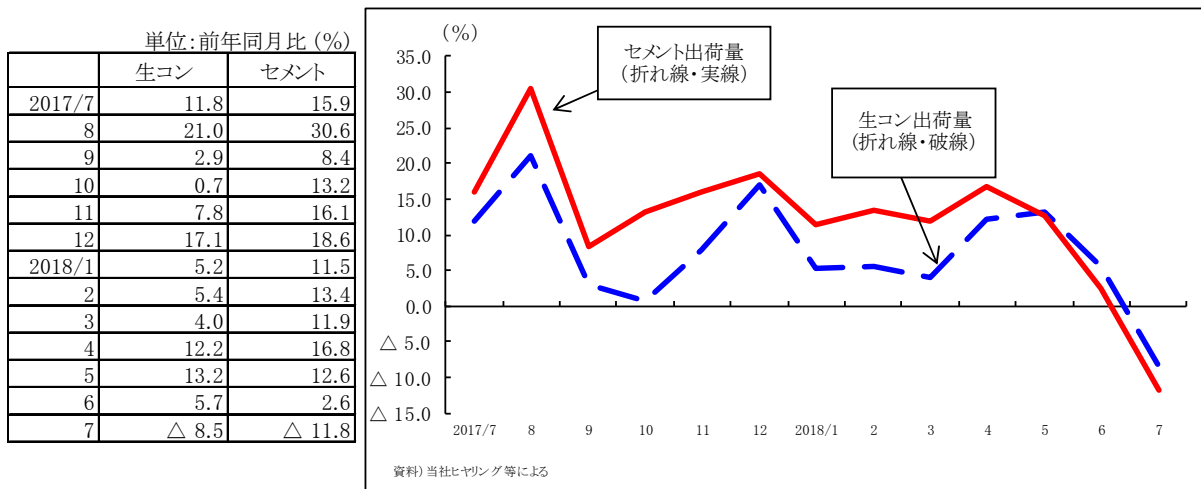
単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比(右軸)
4月	17,823	22,513	26.3
5月	16,886	16,134	11.3
6月	33,703	25,324	△6.5
7月	45,031	26,729	△20.0
8月	41,576		
9月	23,363		
10月	28,073		
11月	23,134		
12月	19,275		
1月	54,569		
2月	24,674		
3月	54,532		



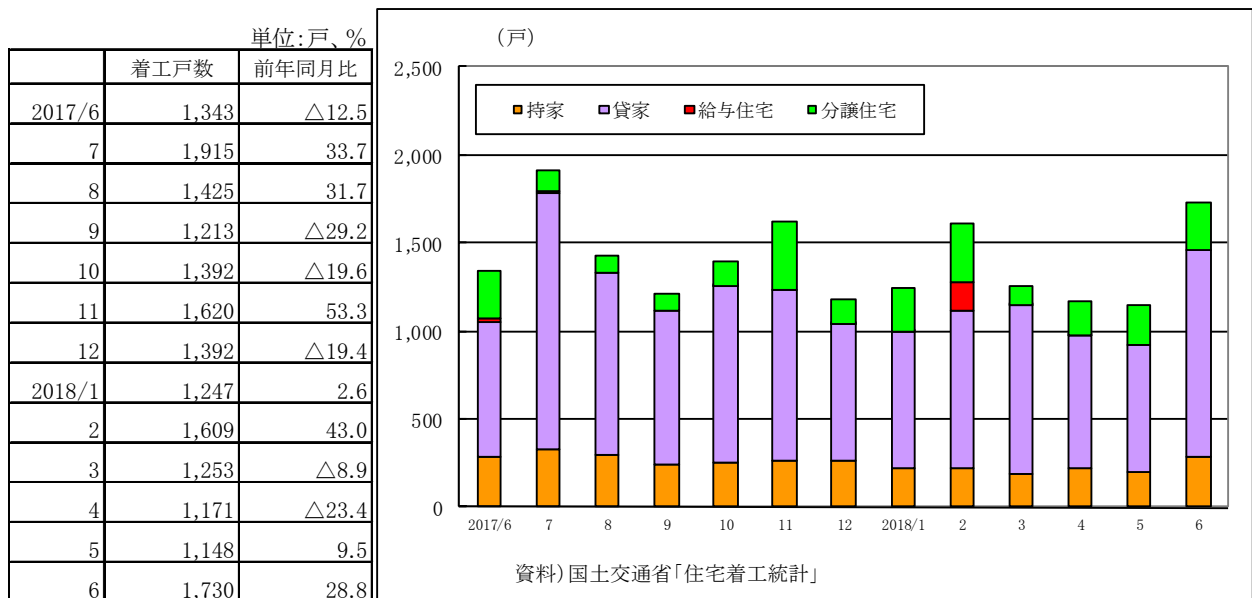
今年度累計値では、20.0%減となっています。(上記折れ線グラフ)

②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



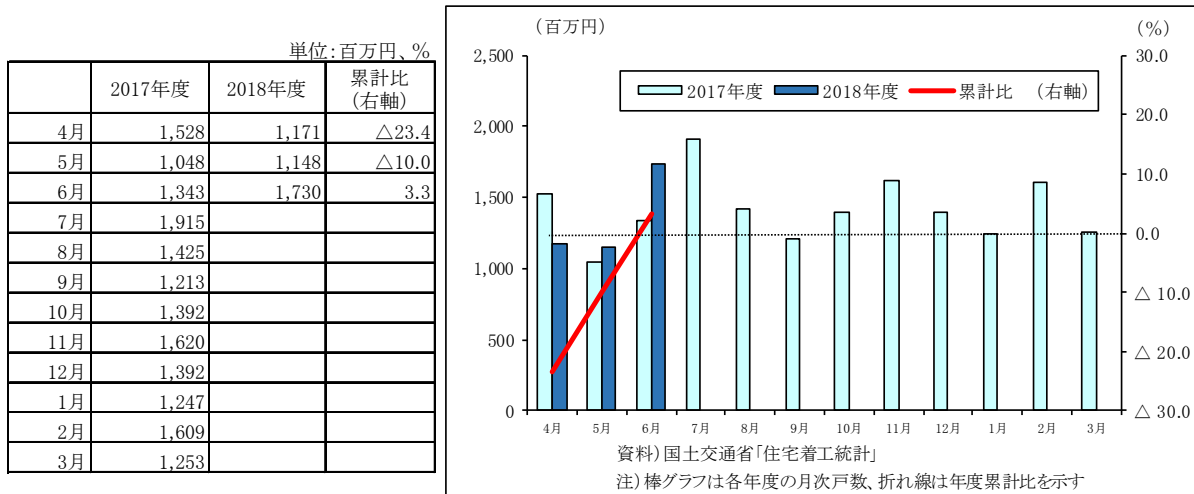
建設資材関連では、生コンの出荷量は 8.5%減と 17 ヶ月ぶりに前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より 16.2% 下回り、民間工事向け出荷も 4.2% 下回りました。セメント出荷量は 11.8%減と 20 ヶ月ぶりに前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資 (6 月)・・・着工戸数は前年同月を上回る。



新設住宅着工戸数 (6 月) は、全体で前年同月比 28.8%増の 1,730 戸と 2 ヶ月連続で前年同月を上回りました。利用別戸数を見ると、ウェイトの高い「貸家 (同 54.1%増)」は前年同月を上回りました。一方で「持家(同 0.3%減)」や「給与住宅(同 100.0%減)」、「分譲住宅(同 0.4%減)」は下回りました。

**【参考】住宅投資（年度累計）・・・6月までの着工戸数は前年同期を上回る。**

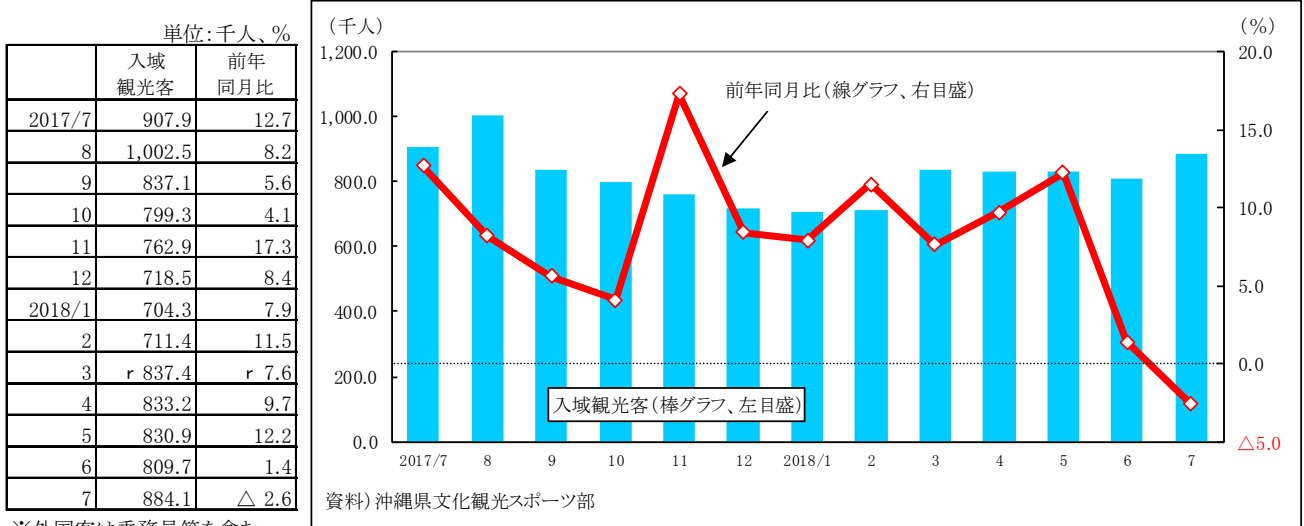


年度累計で見ると、6月までの累計値で3.3%増となっています。



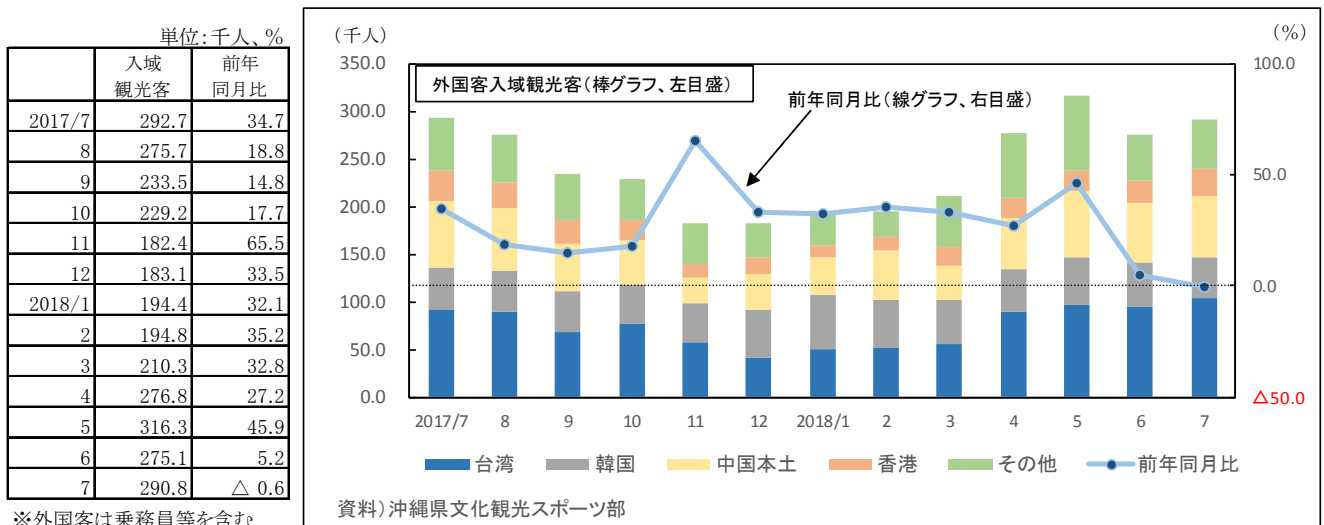
■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数（国内客・外国客の合計）・・・70ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

外国客 入域観光客数・・・17ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む

7月の入域観光客数は、23,800人少ない884,100人(前年同月比2.6%減)となり、70ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客(同3.6%減)」は593,300人と、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージ等の販売が良好であったものの、台風の影響による航空路線の欠航やツアーキャンセルの発生等により3ヵ月連続で前年同月を下回りました。

他方、「外国客(同0.6%減)」は、290,800人と17ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。台風の影響による航空路線の欠航や、クルーズ船の寄港回数減少等により前年同月を下回りました。

「台湾(同13.0%増)」「韓国(同5.9%減)」「中国本土(同6.8%減)」「香港(同8.8%減)」

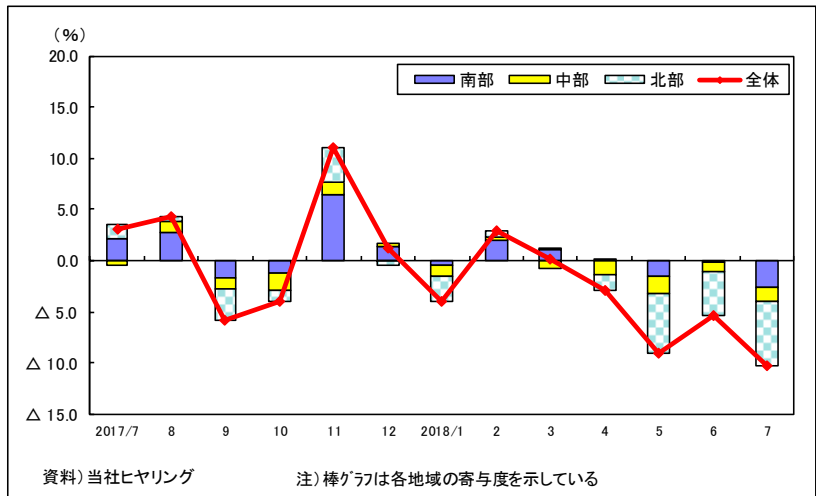
※乗務員等を除く2018年7月実績＝全体847,300人(同2.4%減)、外国客254,000人(同0.6%増)、国内客は変わらない。



② 観光施設入場者数・・・4ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/7	r 3.1	6.7	△ 3.9	r 2.4
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△ 5.8	△ 4.7	△ 10.5	△ 5.6
10	△ 4.0	△ 3.1	△ 14.5	△ 2.0
11	11.1	15.7	9.7	7.3
12	1.2	3.2	3.2	△ 1.2
2018/1	△ 4.0	△ 1.2	△ 7.7	△ 5.1
2	2.9	5.6	1.8	1.2
3	0.2	2.6	△ 7.0	0.1
4	△ 2.9	0.1	△ 11.3	△ 3.1
5	△ 9.0	△ 4.0	△ 14.6	△ 11.7
6	r 5.3	r 0.5	△ 8.5	△ 8.4
7	△ 10.3	△ 7.8	△ 12.8	△ 11.3



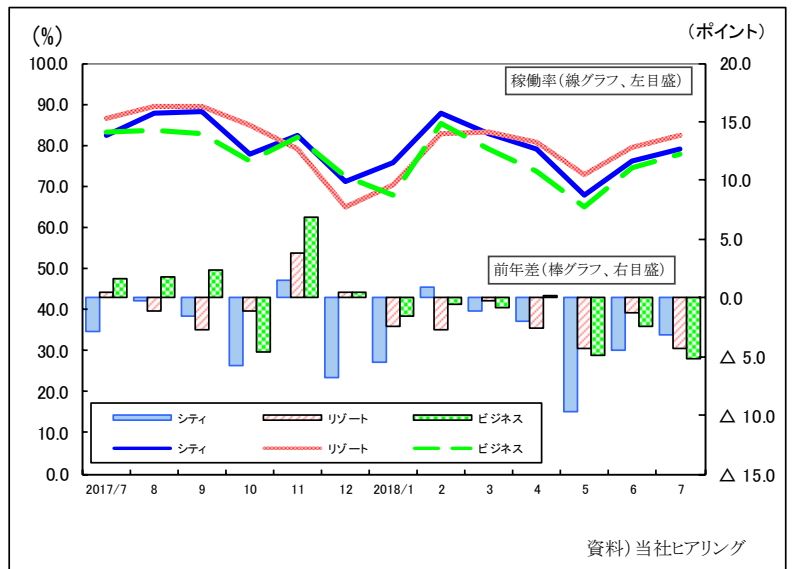
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設  
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より10.3%減少(4ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同7.8%減と3ヵ月連続、中部は同12.8%減と5ヵ月連続、北部は同11.3%減と4ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

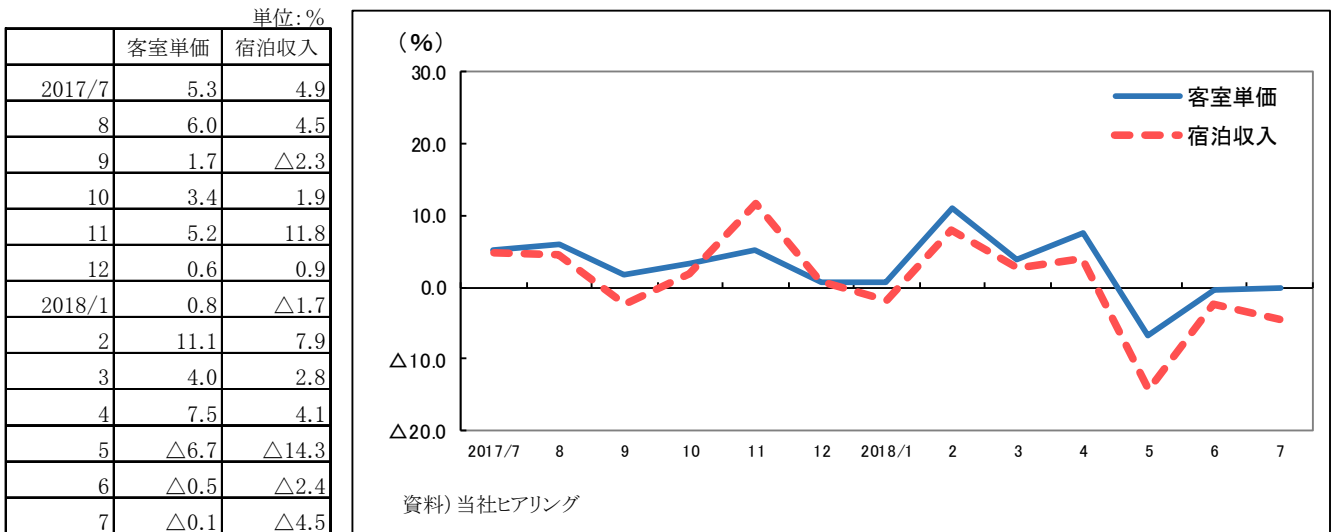
	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/7	82.2	86.6	83.0	△ 2.9	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	△ 0.2	△ 1.1	1.8
9	88.0	89.3	82.8	△ 1.5	△ 2.8	2.4
10	77.6	84.9	76.3	△ 5.8	△ 1.1	△ 4.6
11	82.4	78.9	81.8	1.5	3.8	6.8
12	71.2	65.0	72.5	△ 6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△ 5.5	△ 2.4	△ 1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△ 2.7	△ 0.5
3	82.8	83.0	79.0	△ 1.2	△ 0.2	△ 0.8
4	78.9	80.5	73.6	△ 2.0	△ 2.6	0.2
5	67.9	72.9	65.0	△ 9.7	△ 4.3	△ 4.9
6	76.0	79.5	74.4	△ 4.5	△ 1.3	△ 2.5
7	79.0	82.3	77.8	△ 3.2	△ 4.3	△ 5.2



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル  
注) 2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは6ホテルとなっている。  
注) 2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。  
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが79.0%と3.2ポイント減少(5ヵ月連続)、リゾートホテルが82.3%と4.3ポイント減少(7ヵ月連続)、ビジネスホテルが77.8%と5.2ポイント減少(3ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数に変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

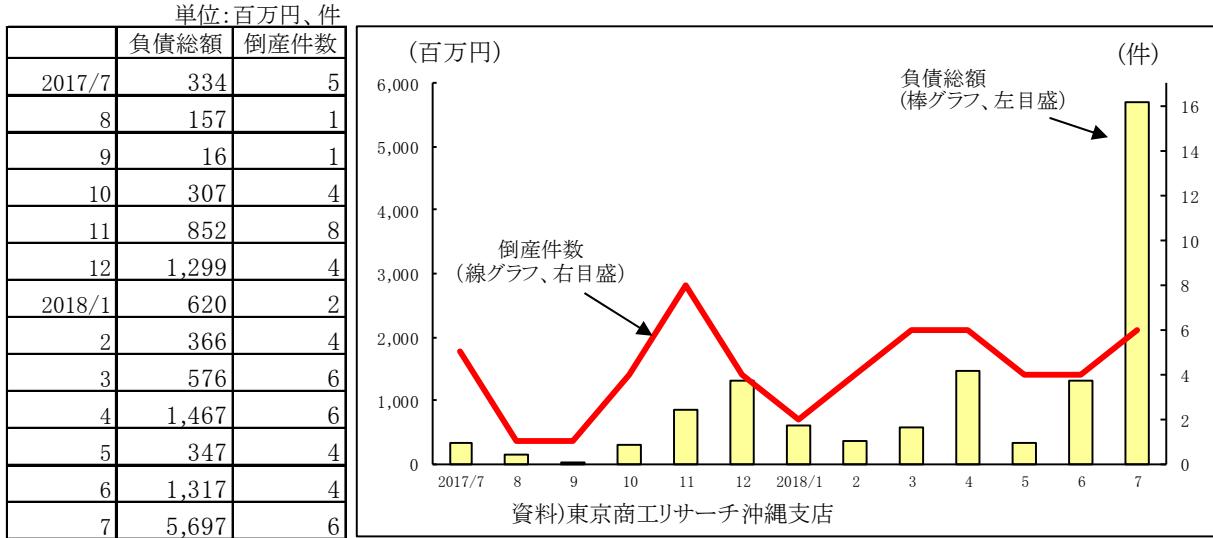
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

**ホテル客室単価**(シティ&リゾート)は前年同月比 0.1%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同4.5%減と前年同月を下回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

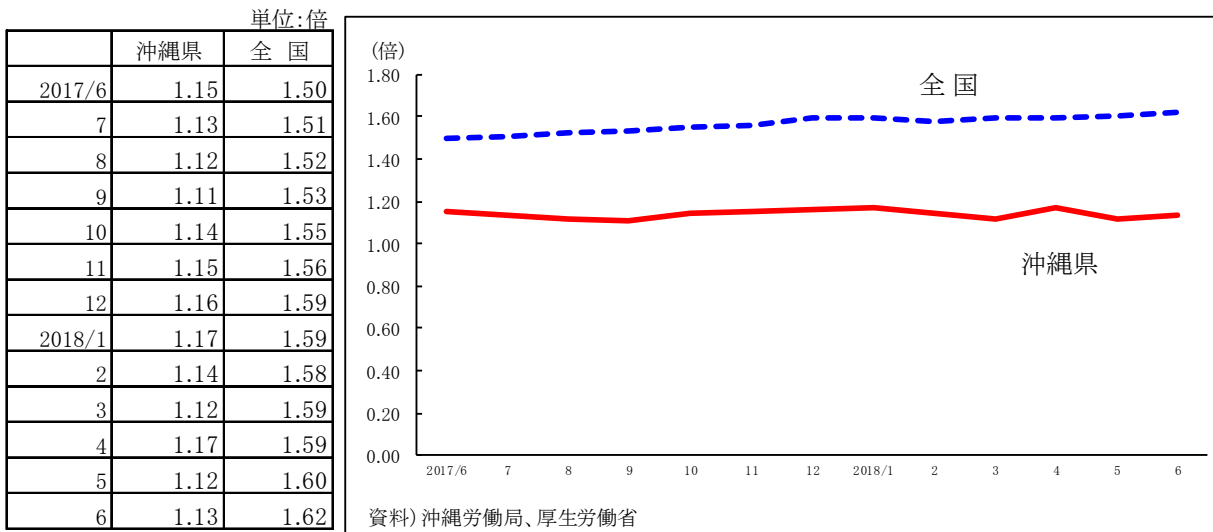


7月の企業倒産件数は、6件(うち大型倒産は1件)となり、同20.0%増と前年同月を上回りました。  
負債総額は56億9,700万円となり、前年同月より1,605.7%増加(約17.1倍)しました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(6月)・・・沖縄、全国はともに上昇。



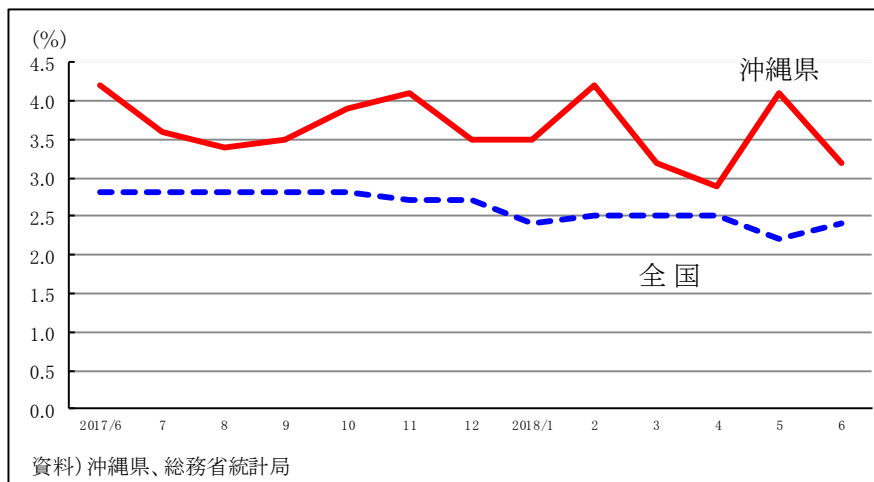
注)季節調整済

6月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比0.3%増の28,390人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.8%減の25,089人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.13倍となり前月より0.01ポイント上昇しました。

完全失業率（6月）・・・沖縄は前月より低下、全国は上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2017/6	4.2	2.8
7	3.6	2.8
8	3.4	2.8
9	3.5	2.8
10	3.9	2.8
11	4.1	2.7
12	3.5	2.7
2018/1	3.5	2.4
2	4.2	2.5
3	3.2	2.5
4	2.9	2.5
5	4.1	2.2
6	3.2	2.4

注) 季節調整済



6月の完全失業率(季節調整値)は、3.2%となり前月より0.9ポイント低下しました。